

地域と農業

会 報

第 **96** 号

Jan.2015

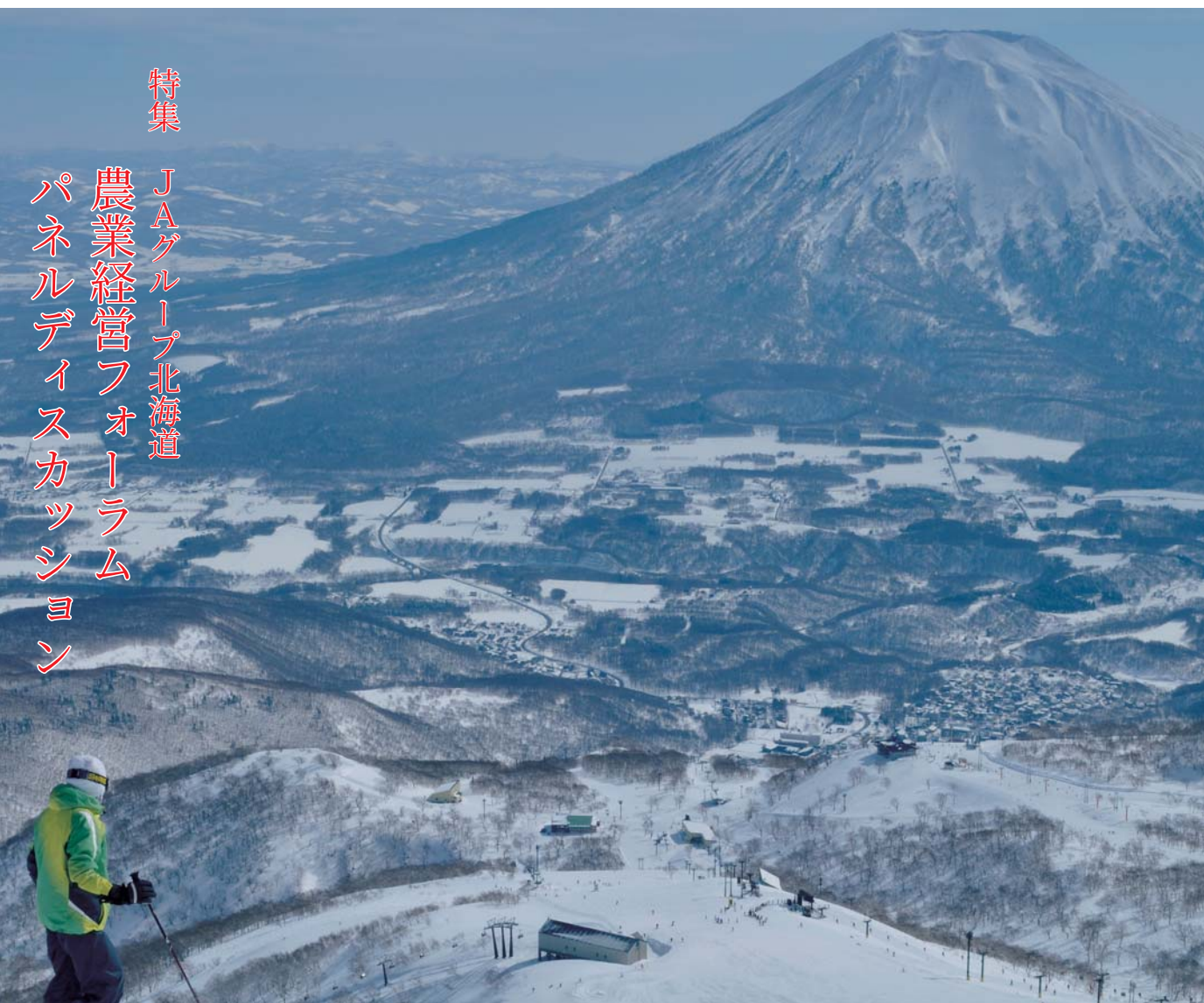
Winter

特集

J Aグループ北海道

農業経営フォーラム

パネルディスカッション



エーコープ くみあい 高度化成肥料

くみあい 粒状配合(BB)肥料



稔りある大地とともに

ホクレン肥料株式会社

代表取締役社長 松村 満

札幌市中央区北4条西1丁目1番地（北農ビル18F）

TEL 代表 (011)222-2444
FAX (011)232-3597

農業をリードする北海道の専門誌

ニューカントリー

◎農政や社会の動きを的確にとらえた「特集」や
経営管理や技術を総合的に検証する「技術特集」
で、北海道農業の今を伝えます。

◎活躍するグループや農業を、豊富なカラー写真
で紹介。営農・生活に直結した連載企画も好評。

◎創刊半世紀、常に新しい視点で、経営発展・地
域活性化に役立つ情報を提供します。

平常号	926円（税込）／送料154円（税込）
新年号	1,183円（税込）／送料205円（税込）
夏増刊	1,440円（税込）／送料134円（税込）
秋増刊	3,909円（税込）／送料205円（税込）
年間購読料	18,956円（税込・増刊込）



— 図書のお申し込みは下記へ —

株式会社 **北海道協同組合通信社 管理部**

☎ 011(209)1003 FAX 011(209)0534

e-mail kanri@dairyman.co.jp

※ホームページからも雑誌・書籍の注文が可能です。

<http://www.dairyman.co.jp>

地域と農業

Vol. 96

——目 次——

表紙写真：「ゲレンデから
羊蹄山を望む」

提供：ニセコ町役場



2

みる
観 察

機能と役割を再確認、新事務所で仕事始め

一般社団法人 北海道地域農業研究所 専務理事 **大坂 雅博**

8

特 集

JA グループ 北海道農業経営フォーラム 第3部
パネルディスカッション

「時代の変化を捉えた農業経営と人材育成」

22

Essay

農家の嫁さんの法則

ジャム工房 緑夢 代表 **寺町 敬子**

26

レポート

日本における酪農畜産の現状とジェネティクス
北海道の取り組みについて

一般社団法人 ジェネティクス北海道 専務理事 **松尾 誠之**

35

連 載

わがマチの自慢 No.4
ニセコ町

一般社団法人 北海道地域農業研究所 特別研究員 **西野 義隆**

40

掲示板・お知らせ・DATA FILE

観 察

みる



新事務所ビル（中央）
～札幌駅北口方向を臨む～

機能と役割を再確認、新事務所で仕事始め

◇会員アンケート、五連との事業検討結果について◇

一般社団法人 北海道地域農業研究所 専務理事 大坂 雅博

新年おめでとうございます。この会報がお手元に届く頃には、すでに皆様は新年の業務を開始されていると思いますが、本年もどうかよろしくお願い申し上げます。

当研究所は昨年の総会后、事務所を豊平区福住からJR札幌駅北口に移転し、平成二七年は新事務所での仕事始めとなりました。

新しい事務所は駅北口から徒歩で三分ほどの距離にあり、石狩街道を挟んで、中央郵便局と向かい合うビルの七階です。農業団体や道庁、主な関係機関からも近く、訪問や打ち合わせに便利な好立地です。移転直後から連合会関係者や大学の研究者をはじめ、出張で来札されたJA役職員、市町村職員など、多くの方々に立ち寄っていただいています。

また、私ども役職員（常勤一五名）の通勤時間も短縮され、

業務の効率化と併せて日常の利便性も向上しました。道央圏の方をはじめ、地方の皆様も来札の機会には、是非お気軽にお立ち寄りください。

・一般社団法人への移行、二八年度からは独自の裁量で

平成二年の設立から、当研究所は本年で二五年目を迎えます。農業と地域を守るシンクタンクとして、幾つかの変遷を経てきましたが、平成二四年四月からは制度改正に伴い、北海道の認可を受けて一般社団法人に移行しています。

その際に義務付けられた要件（公益目的支出計画）を、平成二七年度内で完了することができると見込みです。このため、平成二八年度からは道の指導監督から離れ、法人が独自の裁量で事業展開ができるようになります。

・事業環境の変化と、情報化社会

事業環境の変化については、研究所の設立から四半世紀が経過する中で、農業と地域社会は大きく姿を変え、JAや市町村の運営方針や課題も当時とは変わってきています。その一方で、情報化社会の進展は著しく、私たちは時と場所を選ばず、さまざまな種類の情報を得ることができるようになりました。かつては、会員の皆様にとって、数少ない情報源であった地域農研が、ある面では優位性を発揮し難くなった、と言えるかもしれ



事務所内 ～窓から高層ビルが見えます

ません。

このような環境の変化を認識した上で、先に述べた法人独自の裁量が広がる機会を捉えて、昨年、地域農研の今後のあり方を再確認する作業を行いました。

・地域農研の優位点と課題は何か？

・会員から今後も期待される役割とは何か？

・地域農研がこれから発揮すべき機能は何か？

北農五連に、当研究所の事業を検討する場の設置をお願いし、各連合会の部課長と事務局（中央会と当研究所）計一五名からなる検討メンバーが、都合四回の検討会を実施しました。また、会員皆様の意向を確認するために、アンケート調査を実施させていただきました。

今回はこの二つの結果について、概要をお伝えします。

・五連メンバーとの事業検討、現状認識

昨年七月から十一月まで計四回実施した地域農研の事業検討会の概要は次のとおりです、

第一回 研究所の設立経過、設立時のメンバー、および現在の

体制と事業内容を説明

第二回 地域農研の課題について討議、整理

第三回 地域農研の今後の対応方向について討議

第四回 補足討議と検討結果のとりまとめ、提言書の作成

検討会からの提言書を受けて、地域農研としての現状認識を次の四項目にまとめました。

一・情報があふれる中で、農業と地域を守る視点から、会員に正しい情報を体系立て、分かりやすく解説・発信する機能が地域農研に求められている。

二・農業と地域に立脚するシンクタンクとして、行政とのつながりは欠かせない。設立時からの「官」のスタッフが欠員となっていることから、人材を確保し、情報収集・発信力を強化する必要がある。

三・調査研究事業の質を高め、会員の期待に応える活動には、

高い専門性が不可欠であり、専門研究職の拡充が急務である。

四・JAや連合会とは別の立場から、農業や農協活動の意義を論理的・客観的に訴え、広く道民に理解を得る活動も期待されている。そのために大学や研究機関を支援し、研究者を育成する活動も事業の一環として進める必要がある。

・基本的考え方の確認

今後事業を進める上での基本的考え方は、設立時からの二項

目を引継ぎ、新たに三を加えました。

一・北海道農業の振興に関わる諸問題に、地域の視点から取り組み、JAや地域の将来予測とあるべき姿の提言を行う。

二・JAや行政の地域振興策の樹立を積極的に支援し、生産者や地方自治体と消費者の交流にも貢献する。

三・農業に関わる大学など、教育・研究機関を支援し、本道農業やJA活動の意義を広く一般に伝える研究者を育てる。

なお、検討会からの提言は、大小多くの項目にわたっているため、優先順位を付け、連合会と連携・協力して実践することとしています。直近で取り組む事項は、新年度の事業計画に盛り込んで実施いたします。

・アンケート結果と会員の声

昨年一〇月に実施したアンケートは、一般会員に、当研究所のアドバイザーである参与と運営委員を加えた三二六名（個所）に用紙を配付し、回収率は三一・六％となりました。

集計結果は最終ページにまとめたとおりですが、期待する情報の分野については、「農業や農政に関するもの」が最も多く、次いで「農業団体や関係機関に関する情報」となっていますが、市町村会員だけを見ても、わずかな差ではありますが全体では三位の「農業関係の技術や社会問題のトピック」が二位になっていました。

北海道地域農業研究所の設立

- 昭和63年2月 佐伯利彦氏（農協問題懇話会の第3代会長であり当時ホクレン理事）が、ホクレン西村常務に懇話会を法人化するための財政的援助を申し入れる。

～約50名の熱心な研究者に 広い活躍の場 を与えたい～

- ホクレン役員室と懇話会事務局が新組織設立に向けて活動を開始。

長野県と京都府にある産学協同の研究所を手本として調査。

- 平成元年9月1日 設立発起人会を開催

（設立準備委員）道庁と中央会の参画必要 →道は認可する立場からオブザーバー

委員長	妻木義一	北農中央会常務	委員	尾形圭昭	共済連常務
委員	七戸長生	北大農学部教授	〃	長内義昭	厚生連常務
〃	牛山敬二	北大経済学部教授	〃	河村征治	市民生協理事
〃	西村博司	ホクレン常務	〃	幸健一郎	懇話会事務局長
〃	林 政明	北海道信連常務	オブザーバー	武田善行	道農政部次長

事業検討会（第1回）の資料より

情報の提供方法については、会報「地域と農業」の活用と拡充に次いで、「ホームページ等の活用」を期待する声が多く、今後さらに改善する方向で取り組みます。

情報提供の頻度は、現在会報を配付する程度で良いと応えた会員が多く、「多いほど良い」との回答はわずかでした。

地域農研が今後力を入れるべき事項については、

「これからの北海道農業や地域の課題に関する調査や研究と提言」が最も多く、次いで「農協や市町村の活性化策や課題解決の支援」、「北海道の農業や農協活動を（消費者などに）理解してもらうための活動」が多く、「農業や農政についての講演会や研修会の実施」「会報『地域と農業』の拡充」と続いています。

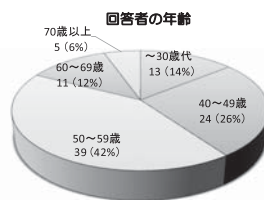
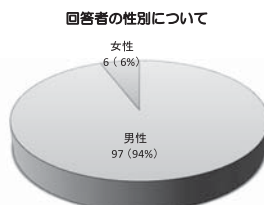
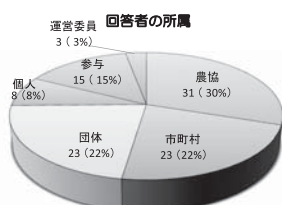
この他に、自由記入欄には期待する情報提供の例として、「研究成果の要約」や「地域での農家の取組み」などがあり、「消費者への情報発信」や「人口減少を踏まえた長期スパンでの農村展望」を期待する意見など、貴重なコメントをいくつもいただきました。

アンケート結果は、現状の課題や今後期待する活動などの点で、五連との検討結果と一致するものも多くありました。新年度から具体的な改善や、研究スタッフの拡充に取り組み、皆様の期待に応えられる活動をこれからも目指します。アンケートに協力いただいた皆様、検討会メンバーと協力いただいた関係者に心からお礼を申し上げます。（完）

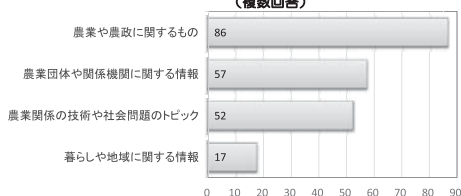
アンケート調査結果の概要

項 目	配布 件数	回答 件数	回 収 率 (%)	回答者につ いて		回答者の年代						1. 地域農研から、どのような情報提供を期待しますか？ (複数回答可)					2. 情報の提供方法で良いと思われるのは？ (複数回答可)				
				男性	女性	～30 歳代	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上		農業や農政に関するもの	農業団体や関係機関に関する情報	農業関係の技術や社会問題のトピック	暮らしや地域に関する情報	その他	会報「地域と農業」の活用と拡充	その他印刷物によるもの(レポートやプリント)	ホームページ等の活用	講演会や研修会の開催	その他
計	326	103	31.6	97	6	13	24	39	11	5		86	57	52	17	7	60	20	42	37	2
農 協	98	31	31.6	30	1	2	7	21	0	0		25	20	17	4	1	17	6	10	11	0
市町村	36	23	63.9	19	4	7	13	2	0	0		22	10	12	5	0	15	3	12	4	0
法 人	74	23	31.1	22	1	2	3	10	8	0		18	12	12	2	1	11	2	8	8	0
個 人	90	8	8.9	8	0	1	0	0	2	5		6	6	5	2	1	7	2	3	6	0
参 与	20	15	75.0	15	0	0	0	5	1	0		13	7	5	4	3	8	6	8	7	2
運営委員	8	3	37.5	3	0	1	1	1	0	0		2	2	1	0	1	2	1	1	1	0

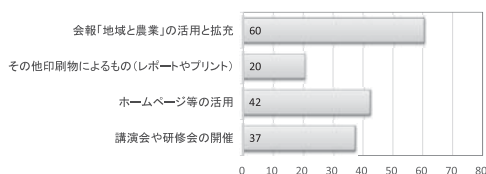
項 目	3. 期待する情報の提供頻度は？		4. 地域農研が力を入れるべき事項は？ (複数回答可)									
	毎月1回程度	2～3か月に1回程度(会報の配付時)	多いほど良い	半年～1年に1回で良い	これからの北海道農業や地域の課題に関する調査や研究と提言	北海道の農業や農協活動を(消費者などに)理解してもらうための活動	農業や農政についての講演会や研修会の実施	地方での講演会や研修会開催	会報「地域と農業」の拡充	農協や市町村の活性化策や課題解決の支援	出版事業(自主研究やレポート等の配付を含む)	その他
計	28	65	5	5	86	45	37	20	25	65	11	2
農 協	9	19	1	3	23	16	10	4	5	21	0	0
市町村	6	15	2	0	20	9	4	5	6	18	3	0
法 人	7	13	1	2	20	8	9	4	7	8	1	0
個 人	1	6	1	0	7	5	6	1	4	5	1	0
参 与	2	12	0	0	13	6	6	6	3	10	4	2
運営委員	3	0	0	0	3	1	2	0	0	3	2	0



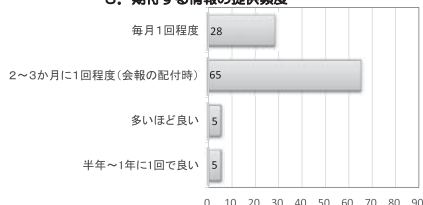
1. 地域農研から、どのような情報提供を期待するか (複数回答)



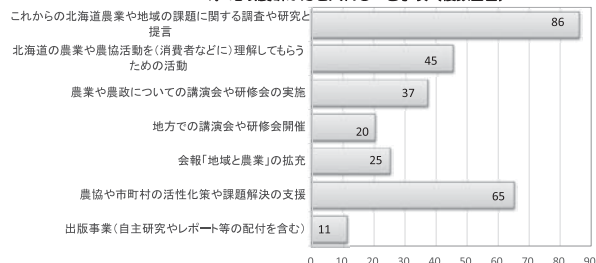
2. 情報の提供方法で良いと思うもの (複数回答)



3. 期待する情報の提供頻度



4. 地域農研が力を入れるべき事項 (複数回答)



「その他」、「自由記入欄」の記述

1. 地域農研から、どのような情報提供を期待しますか？

- ・未来のあるべき姿を今まで通り、それ以上に示してほしい。
- ・T P P、地域の自立。
- ・農業政策の解説。
- ・研究成果のサマリーなど
- ・調査研究の要約。
- ・各種研究の現段階及び成果。
- ・地域での(農家の)取り組みなど。

2. 情報の提供方法で良いと思われるのは？

- ・地方にいと講演会には参加できません。レポートもP D Fなどのダウンロード対応を。
- ・研究等の成果・報告が身内(系統内)の意見として捉えられがちである。第三者としての研究成果・評価等であることを一般の消費者等にも分かり易く理解して頂けるような発信の仕方に工夫が必要でないか。

4. 地域農研が力を入れるべき事項は？

- ・テーマをコンパクトにまとめたブックレット(有価、I S B N登録)。
- ・院生や学生が修論・卒論などのテーマと関連させた研究費応募(オブリゲーションは軽く)。

自由記載欄(お気づきの点)

- ・今の活動に賛同しています。これからも我々J Aのシンクタンクとして頼りにさせていただきます。
- ・地方では講演や研修会等の機会が少ないので…。
- ・今後の活動に期待しております。
- ・J A及び生産者向けの発信だけでなく、消費者等への情報発信を強化して頂きたい。
- ・益々の発展を祈念申し上げます。
- ・農産物の作付条件、将来への方向付、展望など。
- ・北海道農業のシンクタンクとしての機関であり続けるなら、対外的に強力な情報発信を行える機能発揮をすべきでないか。
- ・農政の変更に伴う農家経済への影響試算をタイムリーに情報提供を希望します。
- ・人口減少問題を踏まえた11年後の長期スパンでの農村展望。J A・連合会への提言を期待します。
- ・T P Pや農協改革に対する農家・農協組織の進むべき方向性(対策)を提言。
- ・頑張っている農家をレポートしてほしい。
- ・書類の山に埋もれさせてしまい提出が遅れてしまい申し訳ありませんでした。地域農研の調査研究成果等を一般の方にも解りやすく伝える取り組みが必要とも思っています。
- ・先進技術の紹介等の情報を、会員メリット(講師派遣等)を周知し、活用を図ってもらうべき。
- ・若手の研究者の雇用を考えるべきである。その研究者が大学教授になっても、北海道農業・農協について研究を現場目線で行ってくれば安い費用である。
- ・今後とも北海道の農業振興、協同組合の発展に向けた研究・提言などを期待しております。今後ともよろしく願いいたします。
- ・情報、会報「地域と農業」で充分と言えるのでは、特にこの度の規制改革会議についての講演会の内容大変参考になりました。また、勇気づけられました。

J Aグループ北海道 農業経営フォーラム

開催：平成二六年十一月十三日
主催：J A・北海道信連・農林中金



長谷川会長の開会挨拶

J Aグループ北海道の農業経営フォーラムは平成二十三年度から開催し第四回を迎えましたが、農業を巡る国内外の情勢が大きく変化するなか、それら情勢の変化が農業の最前線にどのような影響を与え、今後どのように対応していくべきかについては、農業者のみならずJ Aグループおよび関係機関が一緒になって議論し、様々な課題に取り組んでいくことが必要と認識しています。また、J Aグループが開催する本フォーラムは、主に農業法人を対象とし、今後の事業発展に役立つようなソフト面での機能・サービスの提供を目的とし、農業法人とJ Aグループとの一層の関係強化のために開催しています。

【第一部 講演】 東京ディズニーランドで、社員教育に通算二〇年間携わった徳源秀氏が講演し、国内随一の人気を誇るテーマパークでのスタッフ育成の極意を語られました。自然な笑顔で来場者に良い気持ちを与えるには、働くスタッフの動機づけが必要であることなどを語られました。

【第二部 講演】 コンビニエンスストア・ローソンの再建に携わり、業界第二位の店舗数に至る成長に貢献した都築富士男氏が講演され、経営者は時代の変化に適応し、課題を明確にして解決策を定め、働く人々と認識を共有して経営を進めるという再建戦略を語られました。

今回紹介する第三部のパネルディスカッションは、この両氏に新篠津村の(有)大塚ファーム代表取締役である大塚裕樹氏が加わり、フリーアナウンサー野宮範子氏がコーディネーターとなつて、進められました。なお、紙面の都合で、ディスカッションの一部を割愛、編集させていただいておりますことを、ご了承ください。

第三部 パネルディスカッション

「時代の変化を捉えた農業経営と人材育成」

野宮 本日は「時代の変化を捉えた農業経営と人材育成」が大テーマになっていますが、大塚代表に人材育成について伺いたいと思います。大塚ファームでは現在もたくさんの従業員の方を雇用していらっしゃいます。従業員のモチベーションアップにどんなことに気を付けていらっしゃいますか。

従業員との情報共有でモチベーションアップ

大塚 毎日、A4のファイル二枚に予定表のようなものが作っています。そこに毎月の売り上げ目標、毎日の売上、前年比の売上、各メンバー全員の一日の作業予定を書いています。また、最高気温や風向き、天気を書いているファイルもあります。毎日約三〇カ所の取引先に十二品目くらいの農産物を出荷しているんですが、その収穫とか出荷予定とかも朝早く

起きて作成しています。あとは大体従業員が日々感じて、大塚ファームで今後必要な物は何かみたいなりストですとか、今後三日間の大塚社長のスケジュールですとか、そういうようなファイルを作っています。そして各スタッフが自分で責任を持つてがんばってもらえるようにする。月次の売上目標を達成したら、みんなで焼肉を食べたり居酒屋に行ったりするんですが、その時大事なのは僕は行かないで、お金だけ出すということです。（笑）

野宮 そのファイルは、毎朝大塚代表が作って、スタッフが全員見られる状態にして、見るのが習慣にもなっているんですか？

大塚 はい、そうですね。タイムカードを押す場所に置いて

■コーディネーター



のりこ
野宮 範子

HBCのニュースキャスターなどを経て、シンポジウム・セミナーの司会・コーディネーター・パネリストやアナウンス講師、エッセイ連載など多方面で活動中。

■パネリスト



おおつか ひろき
■大塚 裕樹（㈲大塚ファーム代表取締役）

2013年に入植100年を迎えた。農業体験の受入れ・消費者交流などにも積極的に参加するとともに有機JAS認定を取得し、30種類以上の有機農産物を生産。それらを利用した加工品の開発並びに製造・販売を行う。（第43回日本農業大賞受賞者）



とく げんしゅう
■徳 源 秀（オフィスリコグニッション代表）

昭和57年（株）オリエンタルランド入社。通算二〇年余の社員教育経験を経て平成18年に（株）ヴィジョナリー・ジャパンのシニアコンサルタント、平成25年にオフィスリコグニッションを設立、代表就任。



つづき ふじお
■都築 富士男（経営コンサルタント（株）都築経営研究所代表）

スーパーマーケット・ダイエーに入社後2年間の海外勤務を経てコンビニエンス・ストア・ローソンの代表取締役就任。その後、上場会社社長を経て、（株）都築経営研究所を設立。平成20年全日本農商工連携推進協議会設立、会長就任。

でありまして、当然見ないとだめです。誰がどんな仕事をしているのかが分かり、トラブらないんです。分業制にしているの、他のスタッフがどんな仕事をしているかがわからないと辛いという事と、一生懸命仕事をしたらそれが数字として出て、現実には今は儲かっているのか、儲かっていないのかという事が、みんなで共有できるようにしています。

野宮 ファームの状態を全員で共有できる工夫が、大塚ファイルなわけですね。トップがいなくても、従業員が現在どういう状態にあるか、何を目標に今自分が働いているかという事が明確になっているということですね。徳先生、この従業員のモチベーションという点について、ダイズニーの場合も秘密のファイブスターカードとかたくさんありましたけれど、いかがでしょうか？

徳 今のお話を聞いて逆に大変勉強になりました。情報共有というのはひとつの大きな切り口だと思います。やはりダイズニーの商品店舗などでも、朝礼にきっちり時間を掛けている店舗はすごく良いんですよ。ただ単に情報提供をするだけではなく



て、そこで充分時間をかけてコミュニケーションを取っているんです。例えば、ちょっとしたクイズ大会で「この店舗で一番近いお手洗いをどうやって説明するか?」とか、基本的なことを投げかけてやりとりし、がんばったら褒めてあげると

いったことをやっている。

この前ディズニの卒業生で、その後社会に出た人間にインタビューをしたことがあったんです。彼はディズニで働いていてめちゃくちゃ元気になったと言うんです。なぜかというと、彼は小・中・高と、あまり学校でも家でも褒められた経験がなかったのですが、ディズニへ行ったら、仕事は辛いけれども何か良い事をしたら褒めてくれる。そんな体験をしてとても元気になったと言っていました。褒める、がんばる、褒めるみたいな、そんなサイクルを回して、それが上手く行くと職場も活性化するのではないかと思います。

褒めること、まかせること、理念を共有すること

野宮 大塚さんはこの「リコグニション・褒める」。スタッフに対してはどうですか。

大塚 僕はあまり得意な方ではなくて、どちらかというと厳しい方なんです。スタッフを見ていると、うちの母親とか嫁さんは上手に褒めているんですね。

徳 そのバランスがいいと思います。全体的に言うと

リコグニションというのは女性が得意なんです。やはり母性からきている部分もありますから。旦那さんがちょっと厳しくやって、フオローを奥さんがする。非常にいいバランスではないでしょうか。

野宮 都築先生は経営コンサルタントというお立場で農業経営にも数多く携わっていらっしゃる。農業経営における「人を育てる」、先生のお立場から何かアドバイスはございますか?

都築 重要なことは、そこで働いている人たちで理念を共有することが原点ではないかと思っています。その人たちの得意な



能力を引き出してあげる。そして任せて行くということが、いちばん人が育つのではないかと思います。あまり細かい事をあれこれ言うとか、委縮する人もいます。人によって受け止め方が違うと思うんです。ぼろかすに言っても、なにくそとがんばれる人と、しゅんとなつて何もできない人がいますから、人の性格とか様々な物を見てそれをきちつとやる。

私は例えば血液型というのも面白いと思っていて、性格の違う人を組み合わせながら、自主性を尊重してその人の欠点を補ってサポートできる形にしてやっていく。それと本人たちの思っていることが実現できるというのが一番良いと思います。働く職場に理念があつて、そこから外れないような形で共有していけば、その理念に基づいて行動しますからね。

野宮 大塚ファームのホームページを拝見すると、読みやすく働きたいなと思う内容になっています。例えばスタッフ募集のところ、いろいろな雇用条件が書いてあるんですが、季節雇用とか、どれも共通しているのが最後に「月一回、交流慰労の場を設けます」とあります。そういう場で、従業員にはいろいろなタイプの人がいますから、フランクにコミュニケーションを取れるところで理念を共有するという機会は大事ですね。人が作るんだなあという感じが致します。

その人材育成と関係がある、人材をどう確保するかに移りた



徳 講師

マーズフェアと名前が変わりましたが、それに毎年参加して、全国各地から色々な人たちを受け入れてきました。一時ITバブルの時に人がいなくなったりしましたが、一番多い年で一年に四〇〇件くらい問い合わせがあり、そのうち四〇〇件くらいを面

位だと思います。これは北海道農業にとって以前から大きな問題です。どうしても求人が集まりにくいという話が良く聞かれます。

人材確保に関しては、大塚ファームではホームページでもいろいろ発信していらっしゃいますけれど、どんな工夫をされていますか。

儲かっている農家の「四つの法則」

大塚 そうですね。私は二五歳の時に「儲かっている農家の四つの法則」というものを見つけたんです。一つめは農場の看板があること、二つめが研修生がいること、三つめが独自の販売をしている、四つめが中古の機械しか買わないことです。

大塚 なるべく仕事の内容を載せています。一年間の作業体系から、あとは当然社会保険があって、退職金を付けていることとか、今年からは住宅手当などいろいろな手当で、賞与や年一回の昇給などです。一般の企業さんみたいに農業法人も待遇改善をしています。ここ二年くらいは、いろんな法人さんも少し給料を高めにしているって、良い人間を集めるように変わってきました。

野宮 徳先生、都築先生。今の太塚さんのお話にもありましたが、農業という仕事のイメージも向上させなければいけな

接して、四人くらい採用しました。有機農業とか北海道農業は十年位前までは人気があって、採用に全然苦労しなかったんですが、ここ三年位、特にTPPの問題が出てから、かなりマスコミとかで北海道農業は危ないぞ〜みたいなことが言われて、農業に入ってくる若い人たちが急激に減っています。それで最近ネットやいろんな媒体も使って、女性の採用も増やしています。

野宮 TPPとかが、マスコミをある意味賑わすようになってからは、発信の仕方・内容というのは、変えているんですか。

いけれども、仕事として成り立つんだというところももちろん発信していかなければならない。就農希望者を多くするために、どんなことが考えられるでしょうか。徳先生から願います。

徳 私也大塚ファームさんのホームページを見て、すごく感激したんです。私自身も面白そうだなとか、やってみようかなと思ったくらいですから、きつと若い方が見たら結構感動するんじゃないかなと思います。アクセス数は日々どれくらいなんでしょうか。

大塚 そうですね。日々は三〇〇くらいですね。

徳 アクセスが増えればもっと広がると思うんですけど。ほのぼのとしていて、何か良いですね。確かに給与とか福利厚生とかの処遇も大事なファクターかと思いますが、すごく人を大事にしている雰囲気伝わってきます。この辺はディズニーと同じような感じですけど、楽しそうにそこで働く人全てを紹介しているわけです。普通の企業のホームページだと、社長さんがボーンと写って、社長さんの挨拶で終るんですけど、そうじゃなくて、そこで働く人が全部写ってそれも一生懸命仕事をしている。研修生も三名いらして、その方の紹

介もされていますね。

野宮 やっぱり人で成り立つだけに人に訴える。働いている人の笑顔を発信するというのも実に大事なことですね。この人材を確保するという点については、都築先生はいかがでしょう。

人材の確保は笑顔の発信から

都築 重要なのは、地域を活性化して、そこで生活ができるという状態にしないと若い人たちが入ってこないと思います。地域を活性化して、そこで女性が生き生きと働いている。そういう姿を発信する。いろいろな体験も加えながら来ていただく。これは余談として聞いてもらいたいのですが、この間博報堂に行きまして「博報堂さん、これをやってくださいよ。日本の農業、農村が活性化しますから」と、二つのことを言ってきたんです。

ひとつは東京に四七都道府県の出店を作る。今、都道府県が別々でやっているの、一カ所に広いスペースで。そこに全地域の特産品が並んでいて、二階で地域の伝統食を食べさせる。地域の新規就農のスペースとかサービス部門もあって、来た人を地域に誘導する。外国から来た人にも観光の名所みたいな形



大塚代表

で来ていただく。良ければ各地に広げていく。こういう取り組みが必要ではないか。発信力は全国にあると思うんです。

もう一つは、私は四七都道府県で、踊って歌える子を見つけて来て発掘、アグリチアーズ47とやりたいんじゃないか。

秋元さんがやっているAKB48よりは、はるかに社会性がある。そしてその人たちに頑張ってもらって、農業の活性化をしよう。

野宮 そうですね。ぜひ女子の力も大いに使って頂きたいと思います。もう一つのテーマ。六次化についてお話を移していきます。

この六次化の言葉がまだ一般的でなかった時代から、大塚ファームでは積極的に取り組まれましたけれど、これは何かきっかけがあったのでしょうか？

大塚 元々、有機野菜はなかなか作っていないという事もあるって、東京を中心に三割から五割位高く売れていたんです。でもリーマンショックが終ってから、デフレで有機野菜が売れなくなっただけです。それでこれ

ではやっていけない。それなら加工品という形で食べてもらって、また有機野菜へ戻ってもらおう期待を込めて、プリンやラスク、ドッグフードを作り始めました。

加工品の種類を増やして失敗

野宮 「種まきと収穫だけでは豊かにならない」というのが大塚さんの持論でいらっしやいますけれど、そこにアイディアとか工夫がなければお金を産まない訳ですね。そういうアイディアのヒントはどういうところから出てくるんですか？

大塚 そうですね。僕は毎朝、日経新聞と農業新聞を読み、あと農作業中はラジオをずっと聞いていまして、当然ネットも使います。そういった中で、自分で（情報の）整理をしながら、毎日机の前でうちの奥さんと議論しながらやっています。

野宮 奥さまの情報収集能力というのはすごくないですか。女性には口コミ力もありますからね。今、注文が殺到しているというか、大人気の大塚ファームの加工品ですけれど、今だから言える、非常に苦労したとか、日の目を見なかったとか、軌道に乗らなかった。そういう例もあったんじゃないですか？

大塚 プリンを三種類から五種類にしたんですね。調子に乗ってドッグフードも五種類作っちゃったんですよ。そうしたら、多すぎて並べられないんですよ。営業に言ったら「そんなにいらない」と言われて、それで急遽三種類にしました。あと、ラスクを四角い箱にしたんです。重ね易いし、陳列しやすいと思ってやったんですけれども、（四角にすると）パッケージの外紙を張るのがすごく難しいんです。そういうことでかなり失敗しました。

今の課題は無添加なんです。安心・安全でオーガニックで無添加ということで、非常に日持ちがしないとか、カビやすいとか、いろいろな問題はあるんです。

野宮 都築先生、消費者というのは非常に厳しい目を持っている方が多いと思うんですが、農業者が六次化を進めていく上で、農業生産はプロでも、加工技術・流通販売まで、やっぱり専門外のところもたくさんあるわけですね。どのようにこの付加価値を高めて六次化に取り組んでいくか。そのへんはどうお考えですか。

六次産業化は、連携相手と出会いの場が必要

都築 先ほども言いましたように、六次産業化を進めてい

くには、連携、コラボレーションが一番良いと思うんですね。

連携してそれぞれの機能を集約して六次産業を進めていく。北海道には良い事例があると思います。江別小麦麵の例では、いわゆる麦の会があって、そことメーカーの江別製粉と菊水と一緒にになって、大ヒット商品の「江別小麦麵」が作られたわけですね。まさに農家と二次企業との連携によってそういう商品が生まれてきたわけですね。おそらく江別は、大豆プロジェクトを立ち上げられると思うんです。大豆農家と大豆を必要とする豆腐屋とか納豆屋とか、そういう人たちが集まって、江別の大豆をどういうふうに商品化していくかという取り組みですから、それは江別の農家だけではできないわけです。そこに連携によって二次産業、三次産業を絡めながら、そして六次産業化を進めていく。それが一番早いのではないかなと思います。コラボレーションによって必要な機能を持っている所と一緒に、なって六次産業化を進めていく。そのことによって農家の所得を高めていく。こういう取り組みがこれからは重要ではないかなと思っています。



都築 講師

野宮 都築先生。この連携先と出会うのが難しいんじゃない

いかと、よく現場から聞くんですけれど。

都 築 この前、仙台で講演したときは、企業の方は中小企業基盤整備機構が集められたんです。農家の方は、日本政策金融公庫が、大規模な農家を集められて、私には「連携力をビジネスに」というテーマで話してくれという事でやったんです。そういう出会いの場が必要ですね。出会いを通じてそれぞれお互いを理解して、どういう機能を持っている会社なのか。そしてある課題を解決するときに、この機能を使いたいという時に、そこと連携ができる。そういう場をどんどん作っていけば、けっこう広がるんじゃないでしょうか。大阪の農林中金さんもそうです。この前講演したときも一五〇名くらいですけど、農家も企業の方もけっこう来ていまして、企業と農家も連携している。そういう場をできるだけ作ってあげたらいいのではないのでしょうか。

野 宮 まだ伺いたい事がたくさんありますが、ここで会場からの質問タイムとさせていただきます。質問のある方はどうぞ手を挙げて頂けますか。

農業地帯の地方創生 Ⅱ 質問に応えて Ⅱ

質問者 私は北海道の南の方で、集落営農を主とした農事組合法人の代表をしている者です。今、地方が人口の減少で崩壊するという元知事の提言などもあり、現実にはうちの管内の農協の中でも農家戸数がどんどん減って、このままいくと一〇年も経たないうちに半減してしまうと、苦慮しております。そんな中で、ぜひ今日は幅広い視点から、北海道の、或いは田舎の農業地帯における地方創生に対するアドバイスを頂きたいと思っています。よろしくお願いします。

野 宮 これは三人の先生からそれぞれお願いしてもよろしいでしょうか。地方創生についてのアドバイスをということですね。

都 築 地方創生というのは、地域を活性化するというのに尽きるのではないかなと思っています。それには、私は三つの取り組みが必要だと思っています。

一つは観光ブランド。要は地域外の人にたくさん来ていただいて、その地域がどれだけ外貨を稼いでいるかという取り組みが重要です。

観光ブランドをひとつのせるためには、いろいろな所と連携



しながら、旅行会社もあるでしょうし、学校もあるでしょう。様々な取り組みをしながら地域外の人に来ていただいて、地域にお金を落としてもらうということがひとつの取り組み。それを誰がリーダーでやるのかということが明確にならないと、その部分が取り残されていくということです。

二つめには特産品ブランドですが、そのブランドによって農作物に付加価値が付く。例えば夕張メロンと言えば全国的に有名ですが、そういう状態をいかにして作り上げていくかということです。

三つめには、暮しブランド。暮しブランドとは、その地域に住んで、市町村民税を払っている人たちが、「ああ、こういう集落に住んでよかったなあ」というふうに思う状況を作っていないとあかん。あるいは観光に来た人たちが「こういう集落に住んでみたいな」と。地域の人たちが、ホスピタリティが高くて、おもてなしとかいろいろな精神がすぐれているなど、様々な要因があると思うんです。

私は、この三つを具体的にやって、地域をひとつのブランドにして、そして地域を活性化する。それが地方創生のひとつの形になるのではないか。魅力のある発信をして、それに共鳴する人に集まっていたく、物を売る時も、主張がないと売れないわけです。主張に共鳴する人が物を買ってくれるわけです。その主張に共鳴する人がその地域に来てくれるのですから。

石川県の小松市というところは北陸で一番のトマトの産地です。そこでは毎年出荷できないトマトを一三トン畑に捨てていたんです。そのトマトの搾り汁を利用して、水を一切使わないトマトカレーを作りました。そういう発信をしますと、消費者にはものすごく受けて、大ヒットしたわけです。

だから地域を創生するということは、地域の活動を常に発信して、それに共鳴する人に来ていただいて、そしてお金を落としてもらう。そうすると地域全体が民宿でも宿でも潤うし、そこが潤えば地域の農産物も使ってもらえるわけです。そういう地域全体で自分たちの地域をどうしたいか？ というビジョンがあって、それに対してそれぞれの役割を決めて取り組んでいって地域を創生する。そういう取り組みが必要になると思っております。

徳　　難しいですね。(笑) わたしはずっとリコグニッションという話をさせていたでいて、良い所を見ることは、人間だけではなくて地域にも必要だと思っんですね。その地域の良い所、他にはない所が必ずあると思うので、そこを発信していくということです。

うちの隣町に自由が丘という街がありまして、十一月にチーズタルトの店がオープンして、大評判なんです。うちから本当に数百メートルなんですけれど、毎日二時間待ちくらい。そ

れは北海道から初上陸という触れ込みなんです。やはり北海道というのはすごいブランド力があるなと思います。ですから、まだまだ気付かない素晴らしい所があると思いますので、それをいかに発信していくかというのがポイントだと思います。

大塚　　僕が田舎に戻って来たのが二〇歳の時で、当時、農業は暗いイメージがあつたんです。これを変えていかなきゃということ、毎年同じ事をやっていたら絶対ダメなので、二〇年間毎年違う事をやろうとチャレンジしてきました。うちのスタッフにも言うんですが、「選択は三つない。必ず二つしかない。それはどんな選択かというと、辛い方と楽な方しかないんだ」と。「楽な道を選んだら遠回りするよ。必ず辛い方、苦しい方を選んで行くことによって、きつとそこに近道があるはずだよ」と言っています。

だから、今は地域を再生する、何かをやるという事は、まさに大変だと思っんですね。でもそこをないがしろにしないで、今日から明日から、辛い道かもしれないけれど、そこに向かってみんなが一生懸命頑張ることが良いんじゃないかなと思います。

全ての皆さんの求めている事というのは、僕は利益だと思っんです。そのみんなの利益というものが何かということ、共通にすることが一番重要なかなと思います。それがお金



なのか、地位というか立場なのか、ブランド力なのか。そこを整理するのが重要だと思います。

飛行機に乗ったら機内誌に、西米良村という村が載っている。人口が一、五〇〇人ほどなのに、ワーキングホリデーで年間数万人の人が来るという所です。二五歳の時に実際に西米良村の役場に行きました。そうしたら役場の職員が本当にがんばっていて、ワーキングホリデーの人たちを駅まで迎えに行つて農家に連れて行くのです。そしてその農家で七時間働いたら、そのお金で温泉にただで入れるというワーキングホリデーなんです。そうすることによって、若い女性がいっぱい来てたくさん結婚する。機内誌の記事には五〇歳のおじさんに二〇歳の嫁さんが来たと書いてあって、「これだ!」と思いました。

北海道へのエールと今後の抱負

野宮 ありがとうございます。残念ながらお時間の方がせまって参りましたので、最後になりますけれど、今日のディスカッションの感想も含めまして、二人の先生から北海道農業へのエールを、そして大塚代表からはぜひ今後の抱負を含めてお願いします。

徳 今日本当に長い間ありがとうございました。さつ

きも言ったように本当に北海道は人気です。チーズケーキは飛ぶように売れるし、物産展をやればみなさん山のお越しになるし、まだまだ気付いていない魅力がたくさんあると思いますので、その魅力を皆さんの力で発信していただければなと思います。今日はありがとうございました。

都 築 私は、(会場で配付した)この雑誌の一〇頁に巻頭文を書いていくんですが、クラーク先生の言葉をもじって、Farmers be ambitious!と書いています。

やはり北海道が日本の食を担っていくんだという気持を持って頑張って頂かないと、日本の食料というのは厳しい状況になっていくのではないか。そういう志を持って北海道の農家にはがんばって頂きたいと思っています。ぜひ北海道が日本の食を担うんだという気持で頑張って頂ければと思います。私もできるだけ応援し続けたいと思っています。ありがとうございました。

大 塚 賞をたくさんいただきまして、やる気も満々で頑張っているわけですけど、僕の目標はとにかく今、三人の息子に農業をさせることです。一人じゃ駄目だ。二人じゃケンカすると。三人でなきゃ駄目なんだということを、子どもが四歳くらいの時から話していますし、研修生を年間二〇人位寝泊ま

りさせて「農業はいいんだ、素晴らしいんだ、農業はカッコいいんだ。」というのをずっと言い続けています。

大塚ファームは一〇〇年経ちまして、もう一〇〇年目指すとだからお前たちの孫たちが農業をやっていくことが、お客様にもう一〇〇年有機野菜を供給することになる。その為にお客様に買って頂こうと。今、三人の息子をかたどったセカンドロゴマークを作りまして、来年からうちの全ての商品にそのマークを付けて、消費者の方々に後継者を育てていただく仕組みを作っていくたいと思っています。

とにかく担い手育成。非常に時間とお金がかかりますけれど、ここに僕は特化してやっていきたいなと思っています。以上です。本当にありがとうございました。

野 宮 今日はパネリストの三人の方々と、会場の皆さまのおかげで農業経営に役立つディスカッションをすることができました。長時間に渡りましてありがとうございました。パネラーの皆さまありがとうございました。

農家の嫁さんの法則

ジャム工房 緑夢（ミドリーム）ファーム
代表 寺 町 敬 子

あくまでも私個人の

考えであることを前置きして、

綴っていきます。

生まれも育ちも、社会人として仕事をしていたのも地元だったので、若いころは「農家と漁師と地元の人とは結婚しない!」と心に決めていたのに、何を間違ったのか・血迷ったのか…地元で、しかも農家の夫と結婚してしまい（笑）三年になる。

その間、なんとなく思っていたのが「農家の嫁さんの法則」である。

◆ 一年 目

その当時は、結婚を機に自分は仕事・習い事・趣味をやめて農家の嫁としての務めに入るのが当たり前だった。夫が農家であることは、キャラメルのおまけのごとく農作業が付いてくる。ただ、一年目は周りが超初心者である嫁を優しくフォローしてくれる。当の嫁も、やるこ

となすことが初めてづくしなので、何をやっても新鮮! しかも若くて体力もあるので、少しぐらいきつい仕事でも一晩寝れば翌日には元気に働けてしまう。

◆ 二年〜三年

子供も、一人くらいできていて一年の流れもぼんやりと分かってくるこの頃は、意外ときつい農作業と子育て家事との狭間で、気持ちが疲れ始めてくる。「大丈夫か? このまま続けていけるかな…今ならわかれても一人でやっていけるかな」と、独身の時の自由さとの違いに僅かな葛藤が始まる。

この頃に、『農の暮し』が自分に向いているのかいないのか考え始めてしまうというのも、まだ地域にも溶け込まず、家の仕事というものと職業としての農家の区別もつきにくい、自分の立場と居場所に戸惑う時期だからだ。

寺 町 敬 子 (てらまち けいこ) さん



☆家族経営の畑作農家

☆夫・私・長男の3人で、約26ha（玉ネギ・小麦・ビート・小豆）規模の農業を営んでいます。

☆信金職員として勤務の後、夫と結婚し農業に従事。

平成7年地元の仲間と共に、『ところよめさんねっとわーく・さくらちゃん』を結成。

☆平成15年緑夢（ミドリーム）ファームとして、自家栽培の果実・野菜を使い農産加工を始める。

☆“農の暮らしは、楽しい！”を、コンセプトに活動中です。

北海道女性農業者倶楽部（マンマのネットワーク）副会長

北見市社会教育委員

北見市常呂自治区社会教育推進会議 会長

◆ 五年～七年

子供の成長と共に学校などを通して自分の友人や地域の知人も少しずつ増え、家の中でも自分の立ち位置が確立され、農家の暮らしもなじんでくるこの頃は、家族の形も整いつつある反面、嫁としての扱いに差が出ている事に気が付いてくる。

他所の家族と共通することもあるが、家庭での立場の違いに不安や不満が膨らんでくるのである。

農作業も、手取り足取り丁寧に教えてもらうことも無くなる反面、自分の責任も増え体もきつくなり始める。疲れていると、何気ない一言が諍いのもとになったりもする。こんな時：「このまま農家の嫁で良いのだろうか？」という思いが頭をかすめてくる。「まだわかれても、自活できる年齢だ

よ。」と悪魔の囁きも聞こえる頃だ。

◆ 覚悟の十年

このくらいになると、地域や学校などの役員などで外に出る機会も増え、家族の中も後継者から経営者になった夫と共に柱となっていく頃になる。

この頃が、『農家の嫁さん』としてこれから自分がどのように生きていくのか、覚悟を持つことが大切になるのではないかと思う。

余談であるが：私は、結婚して一〇年間一度も一泊以上の外泊をしたことがなかった。実家へ帰るのは別ではあるが、友人の結婚式も若妻会の泊りがけ研修も班内の温泉ですら：である。

一〇年を過ぎたころ、若妻会の役員をしたとき家族全員の前で「今度若妻会の一泊研修があるけど、役員もやっているし泊りで行きたい。」と話した時、「子供はどうするんだ」と言う夫の話をささげるように姑が、「みんな一人で寝られる

くらい大きくなっているのだから、行ってらっしゃい。」と言ってくれた。この言葉が夫を納得させ私の背中を押してくれた。今でも忘れられない出来事だった。

これをきっかけに、ほんの少し背中が軽くなり私の行動が一変した。出られるようになればこっちのもの。(笑) そうして、外に出て学ぶほどに「農家」であることがいかに素敵な事なのか、自分なんて豊かな暮らし(金銭的には貧乏だったが)をしているのかを知ることが出来てきた。

「こんなに辛くきつい事を続けていくのだろうか?」という考えから、「もっと素敵なところを自ら見つける力を付けなくてはいけない」と変わり、大地から頂く「いのち」の素晴らしさを子供達にも伝えたいと変わっていった。

そのような頃、同じような想いで集まった仲間で作ったのが、『ところよめさんねつとわーく・さくらちゃん』(以下さくら)である。

◆ 農業は宝箱

今年、さくらの活動を始めて二〇年になる。この間活動の根底にあったのは以下の言葉であった。

農業は宝箱…。

いろんな発見、いろんな感動が
ぎゅっしりつまっている。

まず知ること、

そして学ぶことから始めよう。

楽しく、笑顔でできる農業

やりがいがある、

誇りを持てる農業

私達のそんなちっぽけだけれど、

大切な大切な想いを込めて…。

さあ宝箱を開けてみよう!

発足当初、活動のひとつに『ファーマレットスクール』という農業の基礎を学ぶ講座を、企画・運営・講師の手配・開催場所の確保まで仲間と共に開催した学習の場の、『校則』のようなものが、い

つしか…さくらの理念になっていった。

この言葉は、仲間のひとりが牛舎仕事をしながら考えたものだ。

私達が、さくらの活動を始めた二〇年前は、この地域では異色の農家の嫁の集まりだったので、乗り越えなければならぬ余計な「壁」があった。

◆ “出る杭” 三段活用

前述の『ファーマレットスクール』を開講した当初は、町内の若い年代の女性を中心に四五名もの参加があったが、「あんなものに出ると、ろくな嫁にならん。」などと男性(上の年代)から言われ参加しにくくなった仲間もいた。

農協の職員からは、「はつきり言って、君達の扱いに困っている。」とも…。

それでも、私達が続けてこられたのは、少なくなつたとはいえ今でも楽しくやれる仲間の存在と、私達の活動を理解し送り出してくれる家族、何かと相談にのってくれたり細かく疑問を解決してくれる

普及員さん、数多くはないが協力してくれる農協職員・行政職員など多くの人に支えられてきたのだと感謝している。

ただ…、やはり中には周りの心無い言葉などで辞めていく仲間が沢山いた。

そんな時思いついたのが、「出る杭三段活用」である。

出る杭は…打たれる

出過ぎた杭は…抜かれる

出ない杭は…腐る

抜かれたり、腐ったりして捨てられるより、打たれても「杭」として存在している方がずっと良いよね、と自らに言い聞かせていたことがあった。思えば随分遠い頃の事の様だが。

長く活動が続いていると兎角同じことの繰り返しが多くなるが、私達の活動にマンネリは一切なかった。

何故なら、同じ企画を続けてやらない、皆が一枚岩ではない、誰かの思い付きに共鳴できる、暴走する仲間を止める事が



出来る人がいる、適度な距離感、企画はさくらでやるが運営は周りを巻き込む（協力してくれる人が沢山いる）。目的別グループで皆が同じ目標を持たずにいたのが返って良かったのかもしれないと思っっている。

何よりも…農業は面白いことがいっぱい詰まっている宝箱なのだから、いろんな事が出来て私達をわくわくさせてくれるものなのだ。山に「木」を植えるように、わくわくの「気」を植え続け、やがて自分が枯れる頃には、次の『農家の嫁さん』が新しい法則を考え出して欲しいと思う。（最終回）

寺町さん、
一年間ありがとうございました。

日本における酪農畜産の現状と ジェネティクス北海道の取り組みについて

一般社団法人 ジェネティクス北海道
専務理事 松 尾 誠 之



十勝清水種雄牛センター

一・一般社団法人 ジェネティクス北海道 の組織と沿革

昭和四十七年七月二二日に、家畜の改良と増殖をはかり、我が国の酪農畜産経営の安定に寄与することを目的として、ホクレン・酪農開発事業団・道内各地区連合会等で行われていた家畜人工授精事業を統合し、「社団法人 北海道家畜改良事業団」が設立。

平成一三年四月に、(株)ジャパンホルスタインブリーディングサービスの家畜人工授精部門と統合して、「社団法人 ジェネティクス北海道」に変更し、さらに平成二五年四月に、公益法人制度改革により、内閣総理大臣から移行認可の交付を受け、「一般社団法人 ジェネティクス北海道」へ移行しました。

現在、ホクレン農業協同組合連合会をはじめ、根室生産連、上川生産連、釧路農協連、十勝農協連、(一社)家畜改良事

機構 Organization Outline

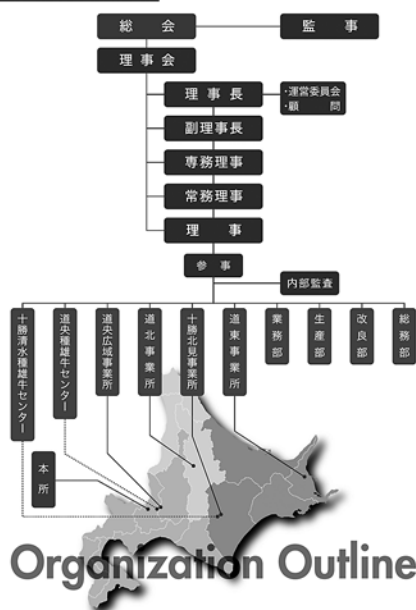


図 1 機構図

二. 当団の事業概要

(一) 家畜人工授精師の教育訓練

家畜改良増殖法に基づいた家畜（牛）人工授精師および家畜受精卵移植の資格取得講習会をはじめ、技術者・生産者を対象とした乳・肉用牛の改良・増殖に関する各種講習会を開催しています。また道内大学・関係団体と連携し、農業後継者の教育・育成に協力しています。

(二) 家畜の改良増

殖に関する振興奨励
乳・肉用牛の改良事業
を推進している関係機関
・団体の事業に対し支援
・協力するとともに全国
の乳・肉用牛共進会、枝
肉共励会等に積極的に参
加しています。また、優
良種雄牛・優秀雌牛生産
者に対する顕彰事業を

行っています。

(三) 家畜の改良に関する調査研究

乳用牛については、産乳能力と機能的
体型（乳器・肢蹄等）および管理形質
（繁殖性・分娩難易度・体細胞）等の改
良を重点的に進めるため、国内および北
米等において資源調査に基づいた計画交
配等を実施し、世界トップレベルの候補
種雄牛の計画的な生産・導入に取り組ん
でいます。

また、ゲノミック情報等により候補種雄牛の選抜を行い、「乳用種雄牛後代検定推進事業」に参加し、世界的水準の検定済種雄牛を選抜・供用しています。

肉用牛については、脂肪交雑・枝肉重量・種牛性を重点改良目標として、道内を中心に候補種雄牛を生産・導入し、「現場後代検定事業」により優秀な検定済種雄牛を選抜しています。

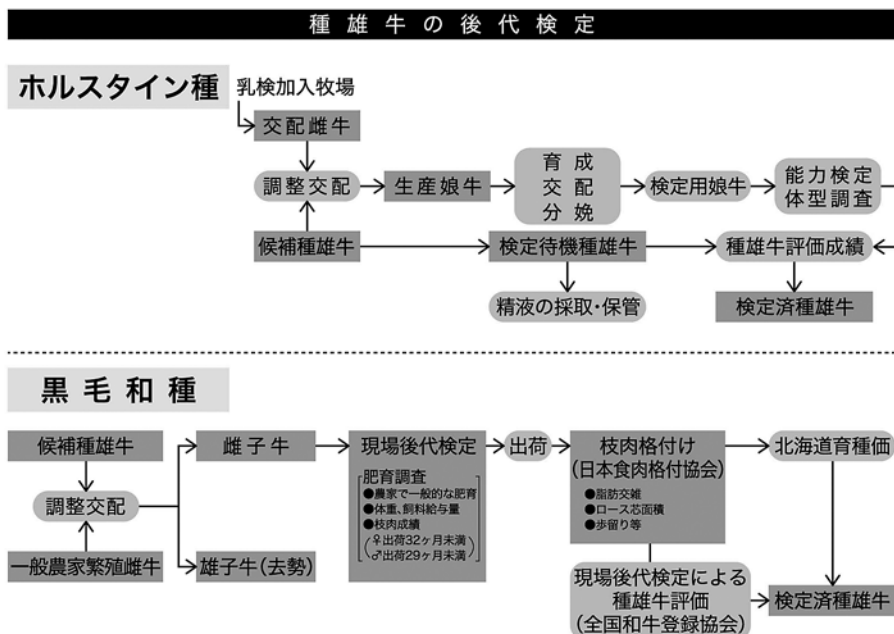


図2 後代検定の仕組み

(四) 家畜の資質・能力の向上に関する事業

酪農家およびJA・NOSAI等に各種遺伝改良情報を提供し、ホルスタイン種の後代検定事業の推進と国産検定済種雄牛の普及・活用推進に努めています。

また、乳用牛群の遺伝能力の効率的な向上を図るため交配相談事業を積極的に推進しています。

黒毛和種種雄牛の遺伝能力を把握するためフィールドにおける最新情報の収集と「現場後代検定事業」を積極的に推進しています。

(五) 計画交配等による候補種雄畜の造成及び確保

(六) 後代検定による優良種雄畜の選抜 (図2参照)

(七) 家畜人工授精用精液及び受精卵の生産、購入及び販売

受胎性の安定・向上に取り組みながら凍結精液の生産・販売を推進しています。また、乳用牛の優良後継牛の効率的生産に寄与するため、性選別精液の生産・販売に取り組んでいます。

(八) 家畜の改良及び繁殖に必要な機材・物品等の購入及び販売



精液採取

三・畜産における厳しい現状

（数字は農林水産省「畜産統計」より、平成二六年二月一日現在）

（一）乳用牛の飼養動向

全国の飼養戸数は一万八、六〇〇戸で、前年に比べて八〇〇戸（四・一％）減少した。うち北海道は六、九〇〇戸、都府

県は一一、七〇〇戸で、それぞれ前年より三・二％と四・一％減少しており、深刻な状態が続いております。

一方、一戸当たりの飼養頭数は年々増加しており、全国平均で七五頭、北海道一一五・三頭、都府県は五一・二頭となっています。

乳価は四年連続値上げとなっていますが、国際的な需要の増加と円安傾向を背景とした飼料穀物、生産資材の高まりが経営を圧迫する中、T P P交渉の成り行きが将来展望の不透明感を増幅し、酪農家の経営離脱に拍車を掛けています。

（二）肉用牛の飼養動向

全国の飼養戸数は五万七、五〇〇戸で、前年に比べて三、八〇〇戸（六・二％）減少した。うち北海道二、六八〇戸、都府県は五四、九〇〇戸で、それぞれ前年より五％と六％の減少になっています。飼養頭数は二五六万七千頭で、前年より七万五千頭（二・八％）減少しました。

なお、一戸当たりの飼養頭数は四四・六頭で、前年に比べて一・五頭増加しました。

全体的に、素牛生産基盤の縮小化による素牛価格の高騰が肥育農家の収益性を悪化させています。

四・当団事業の具体的な取り組みについて

当団の使命である乳・肉用牛の改良増殖をとおして酪農畜産経営の安定に寄与できるよう、近年、下記の事業を積極的に取り組んでおります。

（一）種雄牛造成のための新しい技術

当団では毎年、ホルスタイン種で七四頭、黒毛和種で八頭の若雄牛を後代検定にかけています。後代検定とは、その若雄牛が子供（後代）にどの程度の遺伝的能力を伝えることができるかどうかを検

証するための検定です。この若雄牛の子供の生産は、農家の協力を得て実施するため非常に時間や手間のかかる事業になります。後代検定にかけてからその結果を得るまでは、およそ五年間かかります。最終的に得られる結果は育種価（評価値）と呼ばれるもので、乳量、乳タンパク、乳脂肪、体型や枝肉重量、脂肪交雑などの経済形質に対して各々育種価が計算されます。

遺伝的に優れた雄子牛を生産するための基本的な技術は、その父牛や母牛の育種価を活用する事です。育種価の高い父牛や母牛の組み合わせは、遺伝的に高い雄子牛が生産される確率を高めてくれます。これに、血統や体型などの優れている事も加味されます。しかし、どのように優れた両親からも、常に優れた雄子牛が生産されるわけではありません。これを見極めるために、後代検定による検証が必要になるのです。

この長期間を要する後代検定を短縮で

きるような新しい技術が実用化され始めています。ゲノミック評価技術と呼ばれるものです。

生まれた子牛の段階で、毛根などの試料からDNAを抽出し、塩基配列の中のSNP（スニップ、一塩基多型）を検査するためのキットが市販されており、検査したSNP結果からゲノミック育種価が計算できる体制が海外では確立されつつあります。つまり、五年間の後代検定結果を待たなくても、生後間もない頃に

遺伝的な優秀性を判断できることになりました。後代検定よりも正確度において低いといった欠点はありますが、今後は牛



イルミナ（illumina）社の
各種チップ

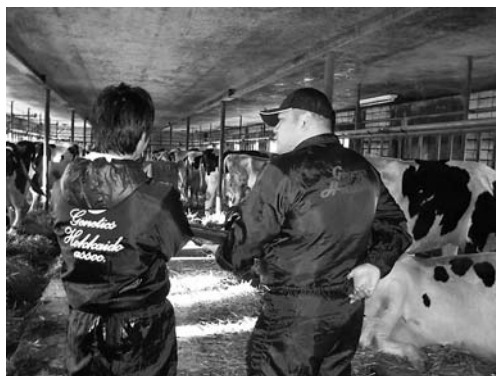
の改良プログラムの根幹的な技術になると考えられています。

我が国においては、SNP検査に基づくゲノミック評価値を持つ若雄牛の利用については慎重姿勢で臨んでいます。次世代を担う若雄牛の造成については積極的に活用されるようになりました。このことにより、後代検定にかける種雄牛の遺伝的なレベルアップと改良のスピードアップが期待されています。

（二）交配相談事業

ジェネティクス北海道では平成二一年度より「交配相談サービス」を北海道内限定で提供しています。平成二五年度には五一九戸で実施させていただきました。

このシステムの開発をしている日本ホルスタイン登録協会、北海道支局と連携し、技術的なサポートを受けながら、改良部と道内四事業所に担当スタッフを配置し、全道各地で実施できる体制をとっています。実施していただいている生産



交配相談

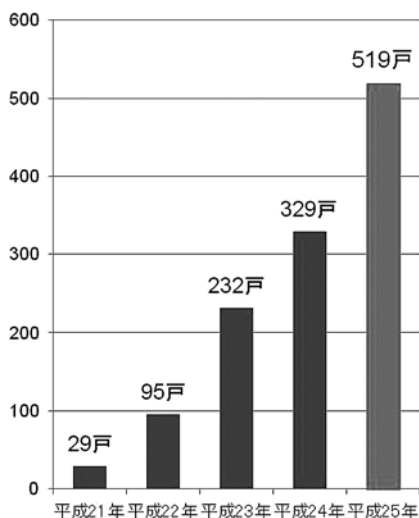


図3 年度別交配相談実施戸数

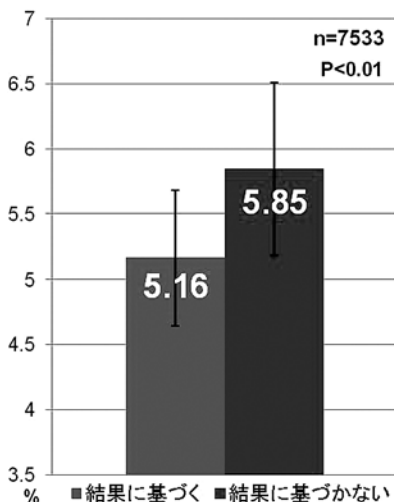


図4 交配相談結果に基づく娘牛と基づかない娘牛の近交係数の差

者の方からは「牛群が揃ってきた」「授精がスムーズにできる」などうれしい声をいただいています。

【目的】

交配相談の目的は牛群の「改良」です。親の世代よりも子の世代の能力を高くするためには、能力の高い種雄牛を利用することが改良の近道ですが、雌牛との血縁関係が近い場合、近交退化による産乳

能力や繁殖能力の低下、遺伝病の発生率上昇が懸念されます。そこで交配相談サービスでは登録情報を用いて、近交係数の急激な上昇を抑える交配を提案しています。

実際に交配相談の結果に基づく娘牛の近交係数は五・一六％、基づかない娘牛の近交係数は五・八五％となり、交配相談によって近交係数を低く抑えられることが証明されています（日本ホルスタイ

ン登録協会北海道支局調べ）。

交配相談をすることで、雌牛が持つ能力と種雄牛が持つ能力を最大限に発揮できる組み合わせを、効率的に見つけることができます。

【始めるには】

交配相談を始めるには、まず正確な雌牛のデータが必要不可欠です。そのため血統登録と牛群検定に加入していること

が必要です。このサービスは無償で行っているため、ジェネティクス北海道に一言「交配相談をやりたい!」とご連絡いただき、検定・血統情報の提供に係る同意書を提出していただくだけで始めることができます。

【やり方】

交配相談サービスの流れは大きく三つに分けられます。

ステップ1

当団担当スタッフが農家へ伺って、牛群の現状を確認し、一緒に改良したい形

条件選択

形質の選択

第1形質 乳脂量

第2形質 なし

雌牛ごとの

近交係数・遺

近交係数

遺伝病発

無脂固形分率
決定得点
体貌と骨格
肢蹄
乳用強健性
乳器
高さ
胸の幅
深さ
体角の性
鋭房の角度
坐骨の幅
後肢側望

交配相談サービスの流れ
ステップ1

質を決めるなど、改良の方向性について検討します。牛群で最も改良したい形質を「第1形質」として選択し（必須）、二番目に改良したい形質を「第2形質」として選択します。総合指数、産乳成分をはじめとした指数形質から、乳量、乳器、肢蹄はもちろんのこと、尻の角度や後乳頭の配置などのリニアスコア、空胎日数などの繁殖管理形質など細かい形質にも対応しており、五〇個以上の形質から選択することができます。

ステップ2

交配相談に利用する種雄牛を選びます。国内の供用種雄牛のみならず、海外の種雄牛などを含めた約六〇〇頭の種雄牛からご本人の希望や、その地域で利用している選定種雄牛、牛群の改良状況、方向性などを考慮して複数の種雄牛を選定します。

ステップ3

ステップ1、ステップ2で設定した条件に基づき、結果が出力されます。表1

のように一頭の雌牛に対して最大三頭が表示され、次世代の近交係数や選択した形質の推定改良量も一目でわかります。

「改良」にはとても長い時間と手間がかかります。交配相談による雌牛の能力が判明するには授精から三年はかかります。しかし改良は日々の積み重ねの上に成り立っており、交配相談を継続していただくことで目標の実現に向かって着実に歩いていけるものと考えています。

(三) 産み分け技術への取り組み

牛の精液には「雌になる」X精子と「雄になる」Y精子が同数含まれていますが、近年フローサイトメーターという細胞分析装置（写真）を使うことによって、X精子とY精子を選別することが可能になりました。選別したXまたはY精子を人工授精用のストローにパッケージした製品を性選別精液と呼びます。アメリカで開発された技術のため、これを利用するにはライセンス契約が必要です。

Gh シェネティクス北海道交配相談サービス推奨種雄牛一覧表

交配相談オリジナルの評価値です。娘牛・産子産産率と娘牛・産子死産率の4つが考慮され、数値が高いほど分娩能力が高いことを示しています。

NO	登録番号	旅大4町	生年月日	本年近交係数	第1親交係数	近交係数	第1形質交差率	第2形質交差率	第2親交係数	近交係数	第1形質交差率	第2形質交差率	第3親交係数	近交係数	第1形質交差率	第2形質交差率	インデックス
1	018H-04055	0405	H13.4.27	7.62	JP&H1357	4.94	0.69	0.04	##H10000	5.42	0.22	-0.02	JP#H1234	5.92	0.17	0.01	★
2	018H-04475	0447	H15.2.21	2.45	##H10000	5.57	0.65	0.06	JP#H1234	5.53	0.61	0.11	##H54321	4.9	0.59	-0.11	★★
3	021H-05602	0560	H15.5.22	5.82	JP&H1357	4.88	0.85	0.3	##H10000	4.76	0.4	0.26	JP#H1234	5.05	0.36	0.3	★
4	020H-05755	0575	H15.7.21	2.19	JP&H1357	4.78	1.15	0.29	##H10000	4.53	0.07	0.26	JP#H1234	5.78	0.62	0.26	★★★
5	024H-05824	0582	H16.12.1	4.34	JP&H1357	6.05	1	0.14	##H10000	6.19	0.54	0.09	##H54321	6.17	0.46	-0.1	★
6	024H-06104	0610	H17.3.21	4.81	##H01234	4.26	0.74	-0.12	##H54321	4.48	0.74	0	-				★
7	011H-06682	0668	H17.5.25	5.12	JP&H1357	5.51	0.58	0.08	##H10000	5.9	0.11	0.02	JP#H1234	5.88	0.07	0.07	★★
8	011H-06743	0674	H17.8.30	4.02	JP&H1357	4.92	1.09	0.3	##H10000	4.3	0.65	0.28	JP#H1234	5.44	0.58	0.29	★★★
9	012H-07015	0701	H17.2.21	3.6	JP&H1357	6.09	1.02	0.38	##H10000	5.9	0.56	0.35	##H54321	5.51	0.5	0.17	★★
10	022H-07288	0728	H15.11.1	7.71	JP&H1357	5.01	1.05	0.18	##H10000	5.21	0.59	0.13	JP#H1234	5.15	0.56	0.18	★

当団は平成一二年度に最初のフローサイトメーターを導入して試験に取り組み、平成一九年度に性選別精液の販売を開始しました。その後、農畜産業振興機構の助成を受けて装置を増やし、平成二二年



フローサイトメーター

度から計六台体制で性選別精液の生産を行なっています。平成二五年度は約六八、〇〇〇本を生産しましたが、そのほとんどがホルスタイン種のX(雌)精子でした。X精子を封入したストローを当団では「GH-X」(ジーエッチ・エックス)

精子の性選別処理は、①種雄牛からの精液採取、②精液中の精子を特殊な色素で染色、③フローサイトメーターで精子を選別、④分取した精子を凍結保存、の順番で行ないます。このうち通常の精液には無い②と③の工程があるために精子の活力が影響を受け、結果として人工授精の受精率は通常精液（選別処理を行なっていない従来製の製品）に比べて下がります（表2）。選別処理に対する耐性や生産効率には種雄牛の個体差がありま

す。

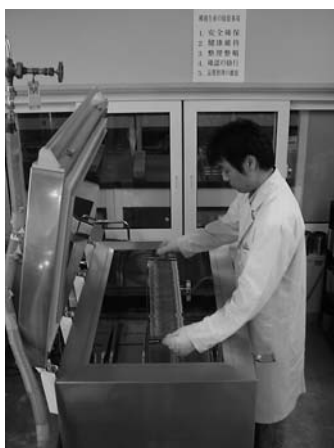
また現在の技術では、X精子とY精子を完璧に分けることができず、ストローの中身が九〇％以上X（またはY）精子に偏っているものを製品としています。GH-X由来産子の調査では、九五％が雌でした。通常精液で雌が生まれる確率

表2 初回授精受胎率

（平成25年度分、ホルスタイン種）

	未経産	経産
GH-X	48.2%	40.5%
GH通常精液	58.7%	46.9%

道内2地区で調査、90日NR



精液製造

は四八％と言われており、これに比べると充分高い確率ですが、一〇〇％の産み分けを保証するものではありません。一方で、性選別精液の製造能力には機械的な上限があり、設備投資の他にライセンス使用料も課されるため、ストロー価格は通常精液よりも高く設定されます。一般に未経産牛は経産牛よりも妊娠し易いので、性選別精液を未経産牛に授精することが推奨されています。

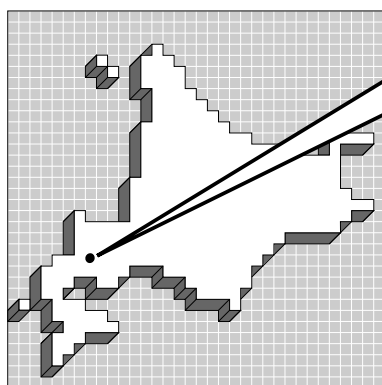
産み分けは農家の利益にダイレクトにつながる技術であり、GH-Xは優秀な種雄牛を活用していただくための重要な

手段の一つです。乳用後継牛確保のため、性選別（雌）精液への助成を組む農協や自治体も多く、増産が求められています。牛の雌雄産み分けは古くから望まれてきたことですが、それを人工授精で実現したことは画期的な成果です。性選別精液に取って替わる新技術は当面見当たらないため、生産効率を上げると共に受胎性能を改善していくことが重要な課題となっています。

五. おわりに

酪農畜産における現状は依然として厳しい中、乳肉とも増産方針が示され、後継牛の生産・保留は重要課題になっています。AI事業体は優秀な種雄牛を作成することが第一使命です。当団は酪農畜産農家の声を聴き、関係機関との連携強化を図りながら、次世代の「求められる」国産種雄牛づくりに新技術を活用しながら邁進して参ります。

連載 わがマチの自慢 No.4



ニセコ町

—羊蹄山と
ニセコアンヌプリを
眺めて—



(ニセコ町市街)

わがマチの自慢第四回は、ニセコ町を取り上げ、暮らし良さ、住み心地をテーマに紹介する。

1. 人口増加率北海道第三位

二〇〇五〜二〇一〇年の五年間において、ニセコ町は北海道三番目の人口増加率三・三%をしめしている。本年の日本創成会議（座長：増田寛也東京大学大学院客員教授、元総務相）の人口減少問題検討分科会の公表内容（二〇〜三九歳の女性の人口減少率を推計し、人口予測をする）によると、消滅を予想される自治体が数多くある中、特徴的な統計数値である。

人口増加率第一位の京極町（六・四%）は北海道電力（株）・京極発電所工事期間における一時的増加、第二位の音更町（六・二%）は近年宅地開発が進み、帯広市のベッドタウンとして増加している。これに対してニセコ町は羊蹄山、ニセコ連峰に囲まれ、景観、空気、水などの自然環境が魅力あふれ、冬はスキー、夏は各種アウトドアスポーツを軸とした観光資源が一つの誘因となり、比較的若い子育て世代やリタイア後の移住者、外国人居住者が増えている。普通出生率（人口

千人に対して子どもが何人生まれたかという数値)においても、ニセコ町は平成一九年七・六(北海道全体七・七)から平成二四年一〇・八(北海道全体七・一)と急激に増加し、子どもの数が増えており、年度により増減はあるものの小学校、中学校の学級数が増加傾向にあるとのこと。

また、平成二二年度国勢調査結果をもとに平成三七年の人口推計を行うと、在住外国人を含み、対平成二二年比十二・五人、十四・七%の五、〇四人となるとの見通しである。

ニセコ町の人口増加率が高い理由を以下に探ってみたい。

2. 豊富な観光資源

ニセコ町は羊蹄山、ニセコアンヌプリ、昆布岳に囲まれ、その景観は圧巻である。パウダースノーと評されるスキー場の数々、点在する泉質別個な温泉、清流、森林など自然環境に恵まれ、リゾート地、観光地としての資源は豊富である。

国際的なリゾート地としてニセコ町が

注目されだしたのは、オーストラリア人スキーヤーが訪れだしたのがそもその始まりとのこと。オーストラリア人スキーヤーは自国のオフシーズンに雪を求めカナダへ出向いていたそうだが、同じ北半球のこのニセコ町を訪れたあるオーストラリア人がニセコの雪質に魅了され、距離的にも近いニセコ町が彼らの間で口コミで広がったそう。こうして近年、オーストラリア人をはじめ、東南アジア



ゲレンデから羊蹄山を望む



ラフティングを楽しむ観光客

など外国人にも注目される冬のリゾート地として評価されるようになったのである。町では国際的なスキーリゾートから通年型の国際リゾートへの脱皮をめざし、現在、商工観光課にニュージーランド、スイス、英国、中国、韓国の各国籍を持つ人たち五名を職員として採用し、外国人居住者、観光客対策として対応にあたっている。

また、ニセコ町は新千歳空港、札幌な

どからのアクセスの良さも観光地としての評価を高めているが、今後、新幹線の駅が俱知安町にでき、札幌からの高速道路が俱知安町まで伸びることで、アクセスの良さがさらに増し、この点もニセコ町の魅力の一つとなろう。

ここでは移住の地として、新たな人生の営みのために、あるいは自らを磨く場として、ニセコを選んだ人たちの言葉（以下、「ニセコものづくり人」（企画／発行ニセコ町商工観光課）というパンフレットより抜粋）を紹介し、ニセコ町の魅力のイメージを湧かせていただく。

「ニセコ町に自宅を構えた理由は、都会の息苦しさから抜け出すこと。そして、懐かしさを感じる自然があり、気候の良さがあるからだ。」（パン舎花地蔵・井上剛さん）

「ニセコの牛は一頭一頭の性格を踏まえて育成されています。ストレスが少ないことで乳質が良く、チーズづくりには最適なんです。」（ニセコチーズ工房・近藤孝志さん）

「ニセコを選んだのは、最高の水があ

るからです。ソーセージをつくる時、良質の水が必要なんです。そしておいしい野菜があるから。」（レストランシェーンベルク・村岸弘さん）

「ニセコを選んだのは、いろんな場所を調べて、観光資源が北海道内で一番豊富だから。スキートの雪質は最高だし、羊蹄山がすばらしい。他にもゴルフはできるし、川下り・ラフティングも楽しめる。温泉も豊富。ニセコを選んで一九年経った今でもその判断に間違いはなかった。」（ニセコ燻製工房・小川孝男さん）

「ニセコの豊かな自然は気持ちよさのびとさせてくれる。自分を磨くためには最高の場所」（書家・小貫烈快さん）

3. 町の二大産業

人の流入を促すためには雇用の場、産業が必要である。ニセコ町の二大産業である観光を中心としたサービス業（飲食店・宿泊業、その他サービス業）及び農業について見てみる。

まず、サービス業については、平成二二年に町の就業人口の七割を占め、サー

ビス業の雇用需要が安定的にあり、移住者の職を支える好循環をもたらしている。

観光客入り込み数は、ここ二〇数年来微増傾向にあり、平成二三年に震災の影響により一時的に減少したが、現在は回復している。季節変動で見ると、平成一年から夏と冬の入り込み数が逆転し、かつてのスキー場中心だった観光に変化が生じ、夏はハイキング、トレッキング、ラフティング、ゴルフなどアウトドアスポーツが取り込まれ、夏冬通年の入り込みがあるという近隣にはないニセコ町の強みがあらわれている。

平成二五年度の観光客の内訳は、道内客七六五千人に対し、道外客八〇五千人、日帰り客一、二〇二千人、宿泊客三六八千人、総入込客数一、五七〇千人である。外国人宿泊延数は約一〇九千人となっており、香港、韓国、中国、台湾などのアジア、オーストラリアから来訪してきており、為替変動の影響があるものの、今後とも増加が予想されるところである。次に農業については、農業就業人口は他地域と同様、減少の一途を辿っており、平成二二年において耕地面積は二、八一

〇ha（ここ一〇年の減少率二・四％、経営耕地面積では微増）、農家戸数一五〇戸（H一二年比三五・三％減）、農家人口五八八人（同四八・三％減）である。

町は第六次農業振興計画（平成二六～三〇年度）を策定し、町の基盤産業を後押ししようとしている。策定の方付けとして、今後一〇カ年計画で着工する国営緊急農地再編整備事業を最重要とした各種生産基盤の整備や担い手への農地利用集積を進め、後継者や新規参入など多様な新規就農者の育成支援体制を整備すること。施策としては、良質な農畜産物の安定的な生産・供給をはじめ、地場



ジャガイモ畑

産品の地域ブランド化、加工化・六次産業化の支援とともに農村環境の観光資源化など観光と連携した地域産業の創造を進めるとしている。

町においては、観光地として農畜産物の地産地消を完結させることが重要課題とのことである。

4. 魅力的な町づくりへ

「ニセコ町は、平成一三年四月に自治基本条例となる「ニセコ町まちづくり基本条例」を全国で初めて制定した。中央依存を脱却し、地方分権時代に対応する

ため、町政の政策形成過程における住民参加制度の保障を柱とする情報共有しながら、住民と行政が自治を進める画期的な指針。現在は、住みよいまちづくりを目指した各種施策が展開され、町民主体のまちづくりが進んでいる。みなによりよい暮らしができるよう、新たな探究心でまちづくり活動を進めている。」（ニセコ町観光ガイドより）

ニセコ町では、まちづくり町民講座、まちづくり懇談会などを定期的に開催しており、このような誰もが町政に参加できる、町民主体の自治は、風通しの良いまち、住みやすさとなり、ニセコに移住する際の一つの要素になったという人もいる。また、平成一六年の内閣府の調査では、ニセコ町は参考にしたい自治体の一位であったことから、住民ばかりではなく、他の自治体からも注目されていることがわかる。

町民参加によるまちづくりは多方面にわたり数多くの実績をあげているが、中でも住民アンケートの結果、評価が高いのは、道の駅「ニセコビュープラザ」、学習交流センター「あそぶつく」などであるとのこと。

道の駅「ニセコビュープラザ」は国道五号と道道岩内洞爺線が交差する所に位置し、「情報プラザ棟」「フリースペース棟」「トイレ棟」の三棟からなっている。ゆったりとしたスペースにはニセコ観光のための情報が充実しており、観光の準備にも好適。フリースペース棟には、特産品のジャガイモを使ったファースト

フードショップや地元「のミルクを使ったソフトクリームがあり農産品の直売を行っている。

ニセコ町では、情報共有化とコスト削減のため、文書は一つとし、担当者がいなくても、誰でも書類がわかるように、三〇秒以内に出せる最先端のファイリングシステムを取り入れた。このシステムの特徴は、「私物化の排除」「即時検索」「他者検索」である。一、二年目の文書



ニセコビュープラザ



あそぶっく

は役場のキャビネット、三年以上経過した文書は学習交流センター「あそぶっく」に図書とともに保存している。この図書館は、二年間かけて町民と行政が一体となった検討委員会以案を練り、旧郵便局舎を改修・増築し、平成一五年四月にオープンした住民自慢の施設である。運営は町民によるNPO法人「あそぶっくの会」（会員数八九名）が行う。住民組織の運営のため、柔軟かつ町民の目線

に立った運営と、人件費などのコスト削減につながっている。同時に社会教育の機能も担い、町民に評価、期待される存在となっている。

このニセコ町まちづくり基本条例前文には、「相互扶助」という言葉が使われており、農場開放を行った有島武郎の人間愛に基づく「相互扶助」の精神が根底にあると公言する人もいる。

〈取材後記〉

記者は四〇年近く前、学校卒業後就職した最初の任地がニセコ町の隣、倶知安町であった。若い頃は、この羊蹄山麓の環境の素晴らしさやここで暮らすことの有難味さえ分からなかったような気がする。年齢を重ね、人生の営みの視点を多少持ち合わせた今、何ともったいない日々を送ったのだらうと悔やむ。

今ニセコ町には、その素晴らしい自然環境に加え、その自然の魅力に集まった人たちと一緒にあった自治の創造という新たな魅力があった。

一般社団法人 北海道地域農業研究所

特別研究員 西野義隆



研究会・研修会等への
報告者・講師の派遣
(平成26年10月～12月)

○「研農協改革に関する研修会」

主催 J C総研(東京)
とき 平成26年10月12日
テーマ 規制改革会議の農業改
革案について
講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

○「第21回日韓シンポジウム
(第8回東アジア農業シンポジ
ウム)」

主催 北海道農業研究会・韓
国江原道農漁村研究会
・中国東北地域農業経
済学会協議会
とき 平成26年10月13日
テーマ ポスト20周年企画ワー
クショップ「中国春川
市近郊農村の20年―泉
田里の定点観測調査」
座長 黒河 功
(当研究所・所長)

○「新篠津村農業振興懇話会」

テーマ 会計事務所による農業
経営支援の展開と農協
営農指導との補充関係
講演 正木 卓
(当研究所・専任研究員)

○「山梨県JAトップセミナー」

主催 山梨県農協中央会(甲
府)
とき 平成26年11月10日
テーマ 農協の大義
講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

○「国際協同組合デー愛媛交流
会」

主催 愛媛県協同組合交流会
とき 平成26年11月12日
テーマ 協同組合の意義と農協
の役割
講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

○「平成26年度定例研究会」

主催 愛媛県農業・農協研究
会(松山)
とき 平成26年11月13日
テーマ 規制改革会議の農協改
革を問う
講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

○「旭川市雇用促進研修会」
主催 旭川市経済観光部
とき 平成26年10月6日
テーマ 農業の6次産業化につ
いて
講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

○「農業情勢学習会」
主催 北海道農民連盟(釧路)
とき 平成26年10月11日
テーマ 規制改革会議の農業改
革を問う
講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

○「今金町農業委員会研修会」

主催 今金町農業委員会
とき 平成26年11月10日
テーマ 北海道における地域農
業支援システムの動向
講演 正木 卓
(当研究所・専任研究員)

○「国際協同組合デー愛媛交流
会」

主催 全国農協中央会(東京)
とき 平成26年11月17日
テーマ 家族農業から協同を考
える
講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

○「平成26年度優良新規就農者表彰式」

主催 公益財団法人北海道農業公社

とき 平成26年11月19日
テーマ 優良新規就農者選考経過

講演 黒澤 不二男
(当研究所・顧問)

○「平成26年度結婚相談員研修会」

主催 NPO法人北海道マリッジカウンセリングセンター

とき 平成26年11月20日
テーマ 活路は山積する課題の中にこそ

講演 黒澤 不二男
(当研究所・顧問)

○「北海道農民連盟北見地区学習会研修会」

主催 北海道農民連盟(北見)後援 オホーツク地区JA組合長会

とき 平成26年11月22日
テーマ 規制改革会議の農協改

革を問う
講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

○「平成26年度JA山形市落成代表者会議」

主催 JA山形市
とき 平成26年11月26日

講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

○「北海道農連東鷹栖支部研修会」

主催 北海道農連東鷹栖支部
とき 平成26年11月29日

講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

○「共和町収穫感謝祭記念講演会」

主催 共和町
とき 平成26年12月8日

講演 黒河 功
テーマ 家族農業経営と六次産業化について

(当研究所・所長)

○「群馬県農協中央会設立60周年記念講演会」

主催 群馬県JA中央会(前橋)

とき 平成26年12月10日
テーマ 協同組合の意義・役割と農協の在り方

(当研究所・顧問)

○「真の農協改革と協同組合の価値に関するシンポジウム」

主催 福島県協同組合協議会

とき 平成26年12月16日
講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

○「JA新潟中央会全職員研修会」

主催 新潟県JA中央会
とき 平成26年12月24日

講演 太田原 高昭
(当研究所・顧問)

人事異動

退職

総務部 主事

平尾 恵美子(平成26年8月31日付)

退職

研究部 専任研究員

正木 卓(平成26年12月31日付)

◆ 編集後記 ◆

●特集で紹介した農業経営フォーラム。人材確保や育成について、成功事例とも言える知見があり、北海道の地域づくりや組織作りのヒントを得た。北海道の恵まれた農や農的資源が大きくなるとまじやブランドに生まれ変わり、さ

らに次世代へと展開していく上で、人を育む事、見守る事は、協同とともに大切な事である。

●平成となりすでに二七年目、昭和の時代から名をはせた名優が昨年末相次いでこの世を去った。寂しい限りではあるが、終わりがあればまた新たな始まりもある。時代が望む

スターがきつと生まれることであろう。

●今冬も節電が続いている。電気料が値上りし、省エネなど無駄の削減にも限界があり皆苦慮している。電力の安定供給や経済活性化のためにも、北海道のイメージを象徴できるクリーンで再生可能なエネルギー転換への計画的推進が

求められる。

●飛び出す話題があつと驚く事実で世間を跳ね回り、そして年末には衆議院選挙と、まさに午年であつたといえる年も終わり新しい年を迎えた。新年を一番に喜んでるのは現首相かもしれないが、奢ることなく、真に国民の願いに応える政策推進を願うばかりである。今年は干支である未のように、おとなしく穏やかな年を期待したいものだ。決して皮を被っているだけの末でないように。

(片岡 省二)



DATA FILE

関連事項／DATA

一般社団法人 ジェネティクス北海道
〒060-0004
札幌市中央区北4条西1丁目1番地
☎ 011 (242) 9644 総務部
FAX 011 (242) 9650

ジャム工房 緑夢ファーム
〒093-0215
北見市常呂町字岐阜220-2
☎ 0152 (54) 3380

ニセコ町役場
〒048-1595
虻田郡ニセコ町字富士見47番地
☎ 0136 (44) 2121
FAX 0136 (44) 3500

一般社団法人 北海道地域農業研究所
〒060-0806
札幌市北区北6条西1丁目4番地2
ファーストプラザビル7階
☎ 011 (757) 0022
FAX 011 (757) 3111
HP: <http://www.chiikinouken.or.jp>
E-mail: office47@chiikinouken.or.jp



株式会社 **ホクレン商事**

代表取締役社長 松浦 祥文

本 社

〒060-8550

札幌市北区北7条西1丁目2-6

NSSニューステージ札幌ビル8F

TEL 011-756-3211(代) FAX 011-709-5640

**Meat
Packer
Incorporation**

安全・安心な食肉を
真心こめて
全道6工場から
全国の皆様へ
お届けします。



株式会社 **北海道畜産公社**

代表取締役社長 山内 啓二

本社 〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル3階

T E L (011) 242-4129 F A X (011) 242-2929



北海道米LOVE×Greeeen
CM公開中!
 北海道米CMソング
 Greeeen
 「メシ I GOT IT ↑↑」
www.hokkaido-kome.gr.jp
 北海道米 検索

ごはんは、
 おなかを満たすもの。
 でも、それだけじゃありません。
 みんなそろって楽しく過ごすとき。
 日本人で良かったと思うとき。
 お母さんのお弁当を残さず食べるとき。
 そのまんなかにあるごはんは、
 おいしいだけじゃない。
 そこにある気持ちこそが、嬉しかったりする。
 なにげないけれど、
 かけがえのない存在だと思う。

**大切な毎日を
 ささえるもの。**



たべよう

北海道米



北海道米 || ゆめぴりか ふっくりんこ おぼろつき ななつぼし
 ほしのゆめ きたくりん
 もち米 || はくちょうもち 風の子もち きたゆきもち きたふくもち
 北海道米販売拡大委員会 北海道米食率向上戦略会議